

JR九州労組

# 退職者連絡会情報

2017年10月24日

No. 57

発行責任者 安井 俊幸

編集責任者 田頭 正憲

## 歓迎 第13回全国会長会議・交運共済推進会議 参加者の皆さま

ようこそ、福岡県朝倉市へ。朝倉市は、九州一の大河・筑後川と日迎えの山に育つ様々な果樹に恵まれ、冬場の温泉シーズンのみならず、ひまわりやコスモス、菜の花など季節ごとに表情を変える花園など四季を通して幅広い層の方にお越しいただいております。明日は、全国的にも有名な朝倉・菱野の三連水車をコースに入れています。短い時間ではありますが福岡県を楽しんでください。

平安時代、菅公こと菅原道真は太宰府に左遷され、罪人同様の生活を強いられました。毎日の食事にも事欠くという暮らしぶりを見かねた近くの老婆（浄明尼）が、梅の枝に栗餅を巻き付けて菅公に差し入れたといわれています。太宰府天満宮参道の門前町では、この故事にならい”梅ヶ枝餅（梅が枝餅）”が作られるようになり、太宰府といえ”梅ヶ枝餅（梅が枝餅）”と言われるほど名物土産となりました。

## 平成28年熊本地震の発生に伴い、被災者救援カンパのご協力ありがとうございました。

熊本地震から1年3カ月が経過しましたが、被災地では未だに約47,000名の方々が、仮設住宅での避難生活を余儀なくされており、豊肥本線の立野駅・阿蘇駅間は復旧の目途が立っていません。

このような中、7月5日から九州北部を襲ったゲリラ豪雨により多くの方々が被災をされ、JRも久大本線で橋脚が流されるなど、新たな災害が発生しました。改めて、地震や豪雨で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。つきましては、災害救援募金を取り組みたいと考えていますので、ご協力をお願い致します。

**募金先 朝倉市福祉事務所**



## JR被害状況（日田彦山線・久大本線）





# 再び回れ、朝倉の三連水車 流木除去

記録的豪雨で被害を受けた福岡県朝倉市の国史跡「三連水車」を復旧させようと、管理する「山田堰（ぜき）土地改良区」の役員や九州農政局の職員など約30人が7月16日、水車に絡まった流木や土砂などを除去する作業に取り組んだ。江戸時代から水田に水を送り続けてきた朝倉のシンボル。除去作業はかなり進んだが、水車がある堀川用水路は豪雨被害で水が流れておらず、復活のめどはまだ立っていない。

この日は午前8時から作業開始。木造の水車を傷つけないよう、基本的に手で行われた。三連水車に付く柄杓（ひしゃく）の中にまで土砂が入り込んでおり、2時間近くかけて水車付近の土砂や流木などの約7割を取り除いた。ほかに2カ所ある二連水車でも作業し、こちらは稼働できることを確認した。

九州農政局によると、上流の取水口にある山田堰を含めた一連の施設に大きな損傷はなく、土砂などを除去すれば元通りに稼働する見通し。ただ、支流も含め総延長88キロの堀川用水路には大量の土砂や流木が流れ込んだまま。三連水車が稼働可能になっても、くみ上げる水がない状態。用水路の復旧は九州農政局、福岡県、朝倉市が今後、本格的に進める予定だが、終了時期は未定という。

改良区によると、堀川用水路から水を受ける水田は約430ヘクタール。うち約130ヘクタールは今回の豪雨で土砂が流れ込み、秋の収穫は困難という。改良区の徳永哲也理事長は「それでも約300ヘクタールが用水路の水を待っている。水車が回れば、地域の住民も元気が出ると思う。一日も早く復旧させたい」と力を込めた。

三連水車は1789年に設置。堀川用水路や山田堰とともに江戸時代以来の“農業遺産”と評価されつつ、今も地域の農業を支える「現役」で、観光名所でもある。山田堰や水車は、福岡市の「ペシャワール会」がアフガニスタンに築いたかんがい施設のモデルにもなっている。



三連水車に絡まった流木などを除去する山田堰土地改良区の役員や関係者7月16日



用水路に残った土砂や流木が取り除かれ、水が通された。水車は約1カ月ぶりに元のように動き始めた。8月2日